

教 師 ノ ー ト

日付 2012年 2月 5日

単元 士師記・ルツ記

テーマ 選び

タイトル ギデオンの選び

テキスト 士師記6:1-40

参照箇所

暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)

ヨシュア1:9 or イザヤ41:10

AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)

[幼稚科2巻-主題4-課10](#) [小学下級3巻-主題3-課6](#) [小学上級1巻-主題2-課9](#)

□導入

今日は、ヨシュアさんが亡くなってからのイスラエルのお話です。

□ポイント1 イスラエルの人たちは主に助けを求めました

イスラエルの人たちは、本当の神様のことを忘れ、自分たちがつくった神様を拝んでいました。ですから神様は、イスラエルの人たちがミデアン人に苦しめられていても、7年間黙って見ていました。

イスラエルの人たちは、ミデアン人がとても怖かったので、山にある、洞窟やほら穴に身を隠していました。イスラエルの人が種をまいて野菜などを育てても、ミデアン人が大勢やって来て、作物を荒らし、食糧をぜんぶ奪って持っていってしまうのです。羊も、牛も、ろばもいなくなりました。もうどうすればよいのかわからなくなったイスラエルの人たちは、まことの神様に、「助けて下さい」と叫び求めました。

神様は、一人の預言者を遣わしてお答えになりました。「私は、あなたがたをエジプトでの奴隷生活から救い出しました。また、エジプト人やたくさんの敵の手から助け出し、この地を与えました。そして私は、あなたたちに『偽物の神を拝んではいけない』と命じました。それなのに、あなたがたは命令に従いませんでした。」とおっしゃいました。

□ポイント2 主はギデオンを選ばれました

ある日、神様の使いがギデオンのもとを訪れました。ギデオンは、ミデアン人に見つからないように、酒ぶねの中で、小麦を打っていました。御使いはギデオンの前に立って、「勇士よ、神様はあなたと共におられます」と言いました。ギデオンは答えました。「それならば教えて欲しいことがあります。神様が共におられるのならば、なぜ、こんなに悪いことばかり起こるのですか。もう神様は、私たちを見捨ててしまわれたのではないのでしょうか。」

すると神様は、ギデオンに命じました。「私があなたを強くします。イスラエルをミデアン人から救い出すのです。私があなたを遣わします。」ギデオンはビックリして答えました。「神様、とんでもありません。イスラエルをミデアン人から私が救うなんて、そんなこと出来っこありません。私は、本当に弱い者です。」すると神様が言いました。「よく聞きなさい。神である私があなたと共にいる。だからあなたは必ずミデアンの大軍を打ち破れる。」ギデオンは、信じる事が出来なかったので言いました。「もしそれが本当なら、その証拠にしろしを見せて下さい。」そして大急ぎで家に帰り、御使いのために肉料理とパンとスープを作って運んで来たのです。

御使いはギデオンに命じました。「肉とパンをその岩の上に置いて、スープをかけてみなさい。」言われたとおりにすると、御使いは手にしていた杖で、肉とパンにさわりました。すると、たちまち岩から火が燃え

上がり、肉とパンを焼き尽くしてしまったではありませんか。その瞬間、御使いの姿は見えなくなりました。ギデオンは、その人が神様の使いであったとわかりました。ギデオンは、神様が自分を選んで下さったことを信じました。そしてそこに祭壇を築き、「主との平和の祭壇」と名づけました。

その夜、神様はギデオンに「イスラエルの人が拝んでいるバアルの像などの偶像を壊しなさい。そして私のために、祭壇を築き直しなさい。」と命じました。そこでギデオンは、神様の命じられたとおりにしました。ただ、家族や町の人々の目が気になったので、誰も見ていない夜中に行いました。

次の朝、町の人たちがバアルの像などが壊されているのを見つけると大騒ぎです。彼らは誰がやったのかを調べ回り、ついに、ヨアシュの息子ギデオンのしわざだと突き止めました。人々はギデオンの父親のヨアシュを怒鳴りつけましたが、父親はギデオンがしたことが正しいことを悟って、息子をかばいました。

□ポイント3 主はギデオンにしるしを与えました

それからしばらくして、ミデアン人がイスラエルを攻めるためにやって来ました。神様の霊に満たされたギデオンが角笛を吹き鳴らすと、一緒に戦おうという仲間がたくさん集まりました。またギデオンが各地に使者を送り、戦士を募集すると、多くの戦士が集まってきたのです。

けれどもたくさんの戦士が集められてもギデオンの心にはまだ恐れがありました。ですから、ギデオンは神様に願い出ました。「お約束どおり、イスラエルを救うために私を選んで下さっているならば、もう一度しるしを見せて頂きたいのです。」「今夜、打ち場に羊の毛を置いておきます。もし明日の朝、羊の毛だけが露でしめり、土がかわいているなら、神様ががついていて下さると信じる事が出来ます。」すると、そのとおりのことが起きました。羊の毛だけがびっしょりぬれていました。

次の晩、ギデオンはもう一度神様にお願いしました。「どうか、怒らないで聞いて下さい。もう一度だけ試させて頂きたいのです。今度は反対に、羊の毛だけをかわかして、地面全体をしめらせて下さい。そうして神様が、イスラエルを助けて下さることのしるしとしたいのです。」神様はギデオンの願いどおりにして下さいました。その夜、羊の毛はかわいたままで、地面は露でおおわれたのです。

ギデオンは、「私があなたと共にいる」という約束がはっきりわかり、神様が助けて下さると信じる事が出来ました。そしてこの戦いはイスラエルは勝つということがわかったのです。

□結論 ギデオンは主に選ばれたことを確信しました

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

1. 神様はギデオンを選ばれたようにあなたを選ばれました。選ばれていることに感謝しましょう。
2. 神様は、あなたを選びあなたを通して何かをしようとしておられます。神様の導きは聖書の御言葉やお祈りによって知ることが出来ます。聖書を読むことやお祈りをするを続けましょう。
3. 奉仕をするときに、自分の力ではとても出来ないと落ち込んだことはありませんか。無力で弱い私たちを選んで下さった神様は必ず共にいて私たちを支えて下さいます。神様を信頼できるようにお祈りしましょう。